

10月 KAVC CINEMA ラインナップ

『隣の影』『99歳 母と暮らせば』『シード ～生命の糧～』

上映期間：2019年10月12日（土）～25日（金） ※15日（火）、23日（水）休館

10月上映の3作品、キーワードは「命」

神戸アートビレッジセンター [KAVC]（神戸市兵庫区、指定管理者：公益財団法人 神戸市民文化振興財団、館長：大谷燮）は、10月12日（土）～10月25日（金）に『隣の影』、『シード～生命の糧～』、『99歳、母と暮らせば』の3作品を上映いたします。

北欧サスペンス『隣の影』は某監督が究極のブラックコメディおよびベストオブドン引きムービーと大絶賛されたように、サスペンスなのになぜか笑いをこらえるのに必死でハマりそうな一作。『シード～生命の糧～』では現実に起こっている事実を知らされ『隣の影』のサスペンスより、「現実が怖い」と思い知らされる作品です。一方、『99歳、母と暮らせば』は99歳の母を71歳の息子が自宅で介護するドキュメンタリー。介護とはいえ、母のキャラに助けられ、ほのぼのと微笑ましい日々が描かれています。ですが、いつか親子の立場が逆転する日が来る。そして、その時が来た時、私たち親子はどのような関係性を築けるのか。それを模索し続ける事が先立つ者への恩返しになるのではないのかと思える作品です。

10月は、サスペンスとドキュメンタリー、ジャンルは違えども『命』が共通のキーワード。3作品を通して様々な視点から『命』について考えていただけるラインナップです。

『隣の影』 監督：ハーフシュティン・グンナル・シーグルズソン（2017 / アイスランド・デンマーク・ポーランド・ドイツ / 89分 / 配給：ブロードウェイ）



『隣の影』トークイベント 開催決定！

10月13日（日） 16：45 回上映終了後

（18：15頃よりスタート / 16:45 上映回を鑑賞された方が対象）

ゲスト：安田謙一（ロック漫画家）、森本アリ（旧グッゲンハイム邸）和久田善彦（びあ株式会社編集者）

旧グッゲンハイム邸管理人・音楽家の森本アリ、「神戸、書いてどうなるのか」などで知られるロック漫画家、安田謙一。そしてこの2人の著書の編集者でもある和久田善彦。元町1003の人気イベント「スター千三夜」でもおなじみの映画好き3人が、北欧サスペンスの魅力について語ります！

『99歳 母と暮らせば』

監督：谷光章
（2018 / 日本 / 99分 / 配給：イメージ・テン）



©イメージ・テン

『シード ～生命の糧～』

監督：タガート・シーゲル、ジョン・ベッツ
（2016 / アメリカ / 94分 / 配給：ユナイテッドピープル）



© Collective Eye Films

【料金】

一般：1700円、大学生：1400円、シニア：1100円（その他、かぶっクラブ会員割引、障がい者割引適用あり）

会場・お問合せ：神戸アートビレッジセンター（指定管理者：公益財団法人 神戸市民文化振興財団） 担当 岡本・野澤
〒652-0811 神戸市兵庫区新開地 5-3-14 TEL 078-512-5500 FAX 078-512-5356

※取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。

10月 KAVC CINEMA ラインナップ

ナショナル・シアター・ライブ 『リチャード二世』『みんな我が子』

上映期間：2019年10月12日(土)～25日(金) ※15日(火)、23日(水) 休館



『リチャード二世』 作：ウィリアム・シェイクスピア

(2019 / 上演劇場：アルメイダ劇場 (ロンドン) / 108分 (休憩なし) / 配給：カルチャヴィル)
演出：ジョー・ヒル-ギビンズ、出演：サイモン・ラッセル・ピール、レオ・ビル ほか

王権の篡奪をテーマにしたシェイクスピア劇。英国王リチャード二世の栄光と王座からの転落、そしてボリングブルック (ヘンリー 4 世) の台頭を描く。タイトルロールを担うのは、NTLive Japan には 2014 シーズンの『リア王』以来の登場となる名優サイモン・ラッセル・ピール。無理やり退位させられ、その後幽閉されたリチャードの長い独白などの見せ場をどう演じるか? 気鋭ジョー・ヒル-ギビンズの演出共々、お楽しみに。

【同時開催】 ナショナル・シアター・ライブ解説講座 第6弾開講決定!
シェイクスピア演劇「リチャード二世」の魅力に迫る

〈全4回 (講座3回+NTLive 映画鑑賞1回)〉

10月11日(金)、18日(金)、25日(金)

各回 17:00～18:30 (90分) 受講料：一般 7500円、かぶっクラブ会員 6000円

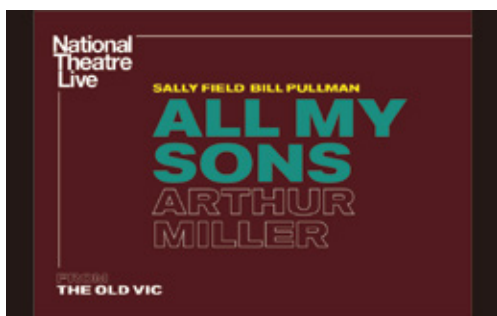
KAVC シアターで偶数月に上映する「英国ナショナルシアターライブ」。その中の1作品について、あらゆる角度からわかりやすく解説する大人気講座シリーズの第6弾は、ウィリアム・シェイクスピア『リチャード二世』を取り上げます。

乗山智成氏 (京都大学大学院人間・環境学研究科准教授) を講師にお迎えし、シェイクスピア演劇の世界観やことばの面白さについて解説する連続講座を開催します。映画鑑賞と合わせてぜひご参加ください!

ナショナル・シアター・ライブ 講座 vol.6 「シェイクスピア演劇の面白さと『リチャード二世』のみどころ」

- ▶10/11 (金) 第1回 NTL『リチャード二世』を見る前の基礎知識
- ▶10/18 (金) 第2回 原作『リチャード二世』の面白さについて
- ▶10/25 (金) 第3回 NTL『リチャード二世』とこれまでの上演・翻案作品

※第4回は、『リチャード二世』映画鑑賞となります。上映期間中(10/12-25)のご都合の良い日に鑑賞いただけます。



『みんな我が子』 作：アーサー・ミラー

(2019 / 上演劇場：オールド・ヴィック劇場 (ロンドン) / 170分 (休憩あり) / 配給：カルチャヴィル)
演出：ジェレミー・ヘリン、出演：サリー・フィールド、ビル・プルマン ほか

アメリカ現代演劇を代表する劇作家アーサー・ミラー (1915-2005) の1947年初演作。一見円満そうな家族の崩壊を描く。戦争特需によって事業を成功させた工場主と、次男の戦死を受け入れられない妻。そんな二人の前に恐るべき秘密を知る人物が現れて……。映画「インDEPENDENCE・デイ」でおなじみのビル・プルマンと、オスカー女優サリー・フィールド(「ノーマ・レイ」「プレイス・イン・ザ・ハート」)が主演を務める。

【料金】

一般：3000円、かぶっクラブ会員：2500円 (シニア料金など特別割引適用なし)

会場・お問合せ：神戸アートビレッジセンター (指定管理者：公益財団法人 神戸市民文化振興財団) 担当 岡本・野澤
〒652-0811 神戸市兵庫区新開地 5-3-14 TEL 078-512-5500 FAX 078-512-5356

※取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。